

# あの夏の雨から40年

## 長崎大水害

連日の雨、集中豪雨が

大水害の引き金に

昭和57年7月23日、長崎大水害が発生。長崎県の中部から西部に停滞した梅雨前線によって、降り始めから翌24日までに降った雨量は約600mmを記録しました。例年7月の総雨量が約300mmですが、この時はその2倍の量が1日で降ったこととなります。



長崎市ではその豪雨の前に、数日にわたり降り続いた雨が地面にたっぴりしみ込んでいました。その地面が、短期的に降った大雨に耐えられず、市内の至る所でがけ崩れや山崩れが発生。満潮とも重なり、中島川や浦上川、八郎川があふれて大水害となりました。

夕方ので、避難や

災害対応がより困難に

帰宅や夕食の時間帯に短時間で豪雨が起ったこと、冠水で交通がまひしたこと、また、7月10日からたびたび出されていた警報で慣れが生じていたことで、人々の避難行動は遅れました。

夜にかけて雨は強まり、停電が発生し、さらに人々の避難は困難に。消防局や市役所には、悲鳴とともに救助を求める電話がひっきりなしにかかっていました。

午後8時30分、長崎市は災害対策本部を設置し、各地の情報収集と対応にあたりましたが、通信の不通や通行を阻む雨、道路の寸断により、対応は困難を極めました。



本河内の国道34号は、土砂で埋もれ道路が寸断された

防災危機管理室  
☎ 822-0480

土石流によって国道34号が崩落し家屋を襲った芒塚町



中島川の氾濫で半壊状態になった眼鏡橋



### 市内全域で甚大な被害

翌日の市内は、災害前からは想像もつかない状態となりました。床下・床上浸水、多くの家屋が倒壊。斜面地が崩れて道路に大量の石や土が流れ込み、押し流された家のがれきや車が積み重なるなど、甚大な被害を受けました。中島川にかかっている眼鏡橋も被害を受け、半壊状態となりました。

この長崎大水害の犠牲者は299人。多くの尊い人命と財産を奪い、経済活動や都市機能などに甚大な被害をもたらしました。

浸水で、使えなくなった商品や家具などが山積みとなった築町周辺



### 死を覚悟した一夜

父は夜勤で家に居らず、母と2人でいつもの日常を過ごしていました。午後7時頃から雨脚が強くなり、外は、雨の勢いと水しぶきが強く、視界がものすごく悪かったことが印象に残っています。家の裏にある川の水量はみるみる増えていきました。

しばらくすると流されてきたバイクが自宅の玄関のドアガラスを突き破り、家の中に大量の水が流れてきました。浸水で豊がぶわぶわと浮き始めたため、母と一緒に避難しようと家を出ました。

家を出た私と母は、道をふさいでいたがれきを乗り越えていこうとしましたが、「ゴーゴー」という音が聞こえ、よく見てみると先に進む母の目の前が川になっていました。もう先に進めないと引き返したところ、一軒だけ明かりのついてる家を見つけました。その家も、上に岩盤が張り出している危なかったため、住人と一緒に近くの公民館へ避難しました。

少しでも高さのあるところに居ようと、ステージの上で身を寄せ合っていました。他に逃げ場がなく、「今日死ぬかもしれない」と子どもながらに感じた瞬間でした。

翌日、夜勤から帰ってきた父に会った時、とても安心したのを覚えていています。その後は、地域のか

たに協力してもらいながら、家の復旧作業に当たり、「自分のことは自分でやる」と意識しました。大水害から数日後、テレビで矢上や鳴滝、眼鏡橋の映像を見て、すごい災害だったのだとその時初めて知りました。

### 災害に備える大切さ

今は職業柄、防火・防災訓練で講話をする機会があり、災害への備えについて話をしています。また、住んでいる地域では、雨が強く降る際には地域のかたに声掛けをするようにしています。

自助・共助で自分や家族などの命を守る、ということが大事ですが、防災講話などで、それが子どもたちには伝わらないことが多いと感じています。なので、ぜひ子育て世代の皆さんに防災などの活動に参加してほしいと思います。

そして、家庭で子どもたちが避難や防災の大切さを知るきっかけを作り、「もしも」の時に備えるようにしてほしいです。



長崎市消防局指令課 課長補佐 松尾伸吾さん

### 当時のことをお話しただきました

## 当時のことをお尋ねしました

### 犠牲になったのは

### 知り合いばかりだった



川平町自治会  
会長 尾崎さん 井手さん

大水害が起こった23日は、午後5時過ぎから雨が降り出し、雨脚が強くなっていったそうです。

午後8時頃、井手さんを含めた地域の若者は、近くの川に流れてきた電柱を除去しに川へ向かい、それが終わったのが約1時間後、雨は小雨状態になり、川の流れもなくなっていたそうです。

それから各々が帰路についた午後10時頃、井手さんが知人と2人で家路を歩いていたら、山の方から「バリバリバリ」と聞いたことのない音が。懐中電灯で山を照らすと、斜面は真っ白に。土石流が発生していました。井手さんが自宅前にたどり着いた時に見たのは、迫り来る1m程の高さの水。その水で、離れた小屋に押し流され、屋根によじ登って見えたのは近所の住宅が流されていく様子。次の瞬間、自宅は押しつぶされて

いました。犠牲者は知り合いばかり。その中には幼馴染もいたそうです。

その後、暗い中、地域のひと協力して人命救助に当たり、尾崎さん宅へ人が運び込まれました。尾崎さん宅ではけが人の手当てや、炊き出しが行われました。

23日に別の地区に居た尾崎さんは、24日朝に川平地区へ戻り、惨状を目の当たりにしました。尾崎さん宅では炊き出しが続けられ、尾崎さんは約10日間にわたって犠牲者の身元確認や、人命救助を行ったそうです。

### 防災のために

### 地域でのつながりを

川平地区で犠牲になったのは34人。毎年7月23日は地域のかた皆さんで「大水害慰霊塔」の前に集まり、犠牲者のご冥福を祈る慰霊祭を行っています。

また、川平町自治会では、災害に備えて地域防災マップや支え合いマップの作成、地域の触れ合いの場を作っているとのこと。

「新しく地域に引っ越して来た人には、自治会に参加してほしい。地域とつながり、互いに助け合う気持ちを持ってもらいたい。それが地域での防災につながる」

災害時のためにも、ぜひ自治会に入ってほしいと話されていました。

## 地域で備える地域防災マップ

市では、地域の危険箇所や避難所、過去に被害があった場所など地域の防災情報を地図に書き込みながら災害時の対応などを話し合い、有事の際に安全に避難行動がとれるよう地域防災マップの作成を支援しています。

### 地域防災マップ作りで

### 災害への危機意識を共有

鶴見台自治会では、副会長で防災部の部長をしている野口さんを中心に、防災・減災の活動に取り組んでいます。

5月29日、梅雨入りを前に、市の防災危機管理室が行っている出前講座を利用して、既存の地域防災マップの見直しを地域の皆さんで行いました。参加者全員で地域の危険箇所を確認。その後、4つの班に分かれて避難場所や各自

が危ないと思う箇所を話し合っ地図に書き込む作業を行いました。

野口さんは、「地域のかた自身が災害に遭う可能性を考え、常に危機意識を持って過ごすためのきっかけになれば」と、今後も自治会で防災・減災の活動を行うていくそうです。

今回見直された地域防災マップは意見を整理し、鶴見台自治会の皆さんに配布されます。

また、市内で作成された地域防災マップは、市のホームページに掲載しています。

マップの新規作成や更新について、詳しくはお尋ねください。



鶴見台自治会  
副会長 野口さん



# いざという時の

## マイ避難所

災害が発生する恐れがある場合、危険な場所にいる人は避難が必要です。

「どのタイミングで避難するのか」「どこに避難するのか」「何を持って避難するのか」を事前に決めておくことは、いざ避難する際にとっても大切です。日頃から、いざという時のことを家族と話し合っておきましょう。

避難先は市が指定する「指定避難所」だけではありません。避難とは「難」を避けること。安全な自宅(在宅避難)や親戚・知人宅(縁故避難)、ホテル・旅館などの頑丈な建物など避難先の選択肢として考えておきましょう。

詳しくはこちら



## VACAN マップス

避難所の開設・混雑状況が確認できます。二次元コードか市ホームページからシステムにアクセスし、避難したい指定避難所を地図上でタップすると、避難所の状況が表示されます。災害耐性なども確認できます。



# LINE 避難訓練

市では、7月23日(土)に、LINEによる避難訓練を実施予定です。

大雨を想定したメッセージをLINEで配信して、皆さんに地域の災害リスクや最寄りの避難所などを確認してもらおうものです。

また、市の公式LINEでは火災や気象、避難に関する情報などもお届けしますので、まだお友だち登録をしていないかたは、この機会に市の公式LINEの登録をお願いします。



受信設定で「防災安全」を選択



登録はこちら

## 黙とうをお願いします

40年前、長崎大水害が発生した7月23日。あの日の土砂崩れなどによって亡くなられた299人の犠牲者のかたのご冥福を祈るため、サイレンを鳴らします。皆さん、黙とうをお願いします。

【事前呼び掛け】10時55分頃から  
【黙とうサイレン】11時



# ながさき防災フェスタ

～あの夏の雨から40年、伝えよう 7.23 長崎大水害～

7月16日(土) 午前10時～午後3時

40年前に起こった長崎大水害のことを伝え、防災意識を高めてもらうために防災フェスタを開催します。家族や友人と一緒に、防災について学びませんか？

【場所】出島メッセ長崎 【費用】無料

【内容】長崎大水害を伝える映像・写真パネルや災害支援グッズなどの展示、防災ゲーム、消火器体験、地震体験など

防災グッズ & 非常食  
プレゼント! (数量限定)

災害時に活躍する車両の展示もあります  
防災ヘリも飛んでくるよ!

